宮城県中学校長会
会報

令和７年度 宮城県中学校長会 第76回総会開催される

総　会　概　略

５月30日（金），第76回宮城県中学校長会総会がホテル白萩で開催されました。佐々木新会長の下，今年度124人の本会員が一堂に会しての開催となりました。御来賓として，副教育長の千葉潤一様，前会長の橋元伸二様をはじめとする９人の方に御臨席を賜り，盛大に開会行事を執り行いました。

平塚真一郎総務副部長の開会宣言後，教育長代理として副教育長の千葉潤一様から御祝辞を賜りました。その中で千葉副教育長御自身が，現在お考えになっている３つのことについて御紹介いただきました。一つは「学校は，楽しいところであってほしい」というお話でした。子供たちにとって，「学校はどんなところだろか」「子供たちはどんな表情，どんな姿で学校生活を送っているか」，子供たちにとって「魅力ある・行きたくなる学校づくり」を進め，子供に居場所があって，自己肯定感・自己存在感・自己有用感をもてる子供たちにしていってほしいと話されました。次に「褒めるより，認める」というお話でした。子供を変えようとするのではなく，分かろうとすること。教師が子供を分かろうと努め，理解できれば，眼差しが変わり，掛ける言葉も変わってくるという趣旨のものでした。そして，最後に，集団が苦手な子供がいることも踏まえながら，「子供と教師がつくる学級経営を進めてほしい」「今こそ，学級づくりを大事にしてほしい」というお話でした。様々なことが求められている今だからこそ，子供を真ん中に置いた教育について，学校のリーダーが大切にしなければならない心得を伝えていただきました。

次に，長きに渡り本県教育の充実・発展に寄与され，今年３月末に御勇退なされた26人の校長先生方を代表して，前会長の橋元伸二様に感謝状が贈呈されました。橋元前会長から，「ファーストペンギン」「ソフトバンクホークスのシートノック」を例えに，「大胆且つ冷静，緻密な」学校経営についてお話をいただきました。「大事な一瞬に備えているか。緻密な備えには『チーム力』が問われる。教職員がみな同じ方向を向き取り組む組織でありたい。授業や行事，部活動などもいいものをつくるには準備が大切。段取り八分ともいう。準備の大切さを教職員に説きながら，大胆且つ冷静，緻密な「ファーストペンギン」としてのリーダーシップを発揮してほしい。健康に留意し，学校経営に御精励ください。陰ながら応援します」と，励ましのメッセージをいただきました。

続いて，今年度入会された32人の校長先生方が一人ずつ紹介された後に，新会員を代表して矢本第二中学校の會田晋一校長先生に佐々木会長から全日中バッチが授与されました。その後，荒浜中学校の遠藤貞悟校長が新会員代表挨拶で「校長として様々な学校課題に真摯に向き合い，その解決に向けて一層の研鑽を積み，日々精進していく」といった趣旨のスピーチを行い，総会の前半の部が締めくくられました。

後半の部では，大河原中学校和田山秀博校長と岩沼中学校池田尚人校長が議長を務め，前年度の事業並びに会計決算について協議がなされ，承認を得ました。また，運営規程の改正，令和７年度活動方針及び事業計画，会計予算，そして宣言決議についても原案どおり承認されました。

最後に，菊池晃子副会長が閉会の挨拶で「引き続き，会員相互の連携を一層強めつつ，理想とする学校経営に邁進していきましょう」と締めくくり，閉会となりました。

あ い さ つ

宮城県中学校長会
会　長
佐々木　　晃

冬物を仕舞い込むのも躊躇するような寒暖の差の激しい日が続いておりますけれども，いよいよこの宮城にも初夏を感じさせられる季節が訪れてまいりました。

新年度がスタートして２月。既に修学旅行や中総体を終えられた学校，あるいは中総体を明日に控えている地区もあると思いますが，木々の緑がきらきら輝くように，各学校におかれましては，笑顔一杯の生徒たちの躍動する姿が多く見られていることと存じます。

本日は，公務御多用の中，宮城県教育庁副教育長千葉潤一様，宮城県中学校長会前会長橋元伸二様をはじめ，御来賓として関係機関の皆様，歴代の校長会長の皆様に御臨席を賜り，令和７年度宮城県中学校長会総会を開催できますこと，会員一同，心より感謝申し上げますとともに，大きな喜びを感じているところでございます。

今年３月をもって勇退されました26人の校長先生方におかれましては，長年にわたり本県教育の発展・向上のため尽力されましたことに敬意を表するとともに，心から深く感謝申し上げます。今後も我々後輩，そしてこの中学校長会への，変わらぬ御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

また，この度，新たに会員となられた32人の

校長先生方，皆様の入会を心より歓迎いたします。既に皆様は私たちの仲間でございます。昇任されました校長先生にとっては，初めて出会う業務，学校では誰にも相談できない業務があろうかと思います。悩んだときには，ぜひ遠慮なく何でも聞いていただきたいと思います。

本日の総会は，人事異動後の新たな，そしてさらなるネットワークを構築していただくとともに，会員が一堂に会し，76回を数えるこの会の雰囲気を直接感じていただくことで，校長としての自覚・覚悟をさらに強くもてる場でもあります。限られた時間ではありますが，今年度の本会の活動について確認・協議を行い，また活動方針などについても内容を共有してまいりたいと思いますので，どうぞよろしくお願いいたします。

さて，コロナが５類に移行して２年が経過しました。コロナ禍では，教育活動の変更や行事の精選，実施時期の変更等，様々な見直しが図られたことと思います。そして現在，既にコロナの制約が解かれた今，学校は以前の姿に戻ったわけではなく，災禍に見舞われながらも，そこで得られた新たな気付きや価値観を基に，令和の日本型学校教育に大きく前進することができました。本日お集まりの校長先生方は，その舵取り役として大いに手腕を発揮されたことと思います。

ただ，その歩みはまだ途上にあります。例えば，コロナ禍で一気に進んだＧＩＧＡスクールについて，構想が打ち出されて５年。デジタル教科書の本格導入や全国学力学習状況調査での理科のＣＢＴ化など，デジタル端末の活用が第２ステージを迎えていると言われています。そのような中，文科省による実態調査の結果を見ますと，本県では「ＩＣＴ環境の整備」については，近年では全国平均を上回る傾向が見られる一方，「教員のＩＣＴ活用指導力」は，全国平均よりも低い状況が続いています。

現在，国の方ではデジタル学習基盤が整備されてから初の新たな学習指導要領について，中教審で話合いが進められています。諮問では，多様な子供に対応できるよう，学校現場の裁量拡大による教育課程の柔軟化の検討が要請され，一コマの授業時間を５分短縮するといったことが言われています。デジタルによって効率化が図られ，生み出された時間を教育の質の向上にいかに結び付け

るか，2030年度からの実施に向けて，教師のデジタルリテラシー養成のための仕組みを校内で構築していくなど，その土台づくりを今から整備していかなければなりません。

次に，部活動の地域展開について，この課題に向けた新たな仕組みづくりが，いよいよ待ったなしの状況となってまいりました。まず休日の部活動をどうするか。それぞれの自治体から方針等が打ち出されていることと思いますが，生徒のニーズに応じた多種多様な体験の機会が保障され，生徒の活動を絶やさない環境づくりが必要不可欠です。今後も会員同士，進捗状況等を情報交換し，中体連の動向も注視ながら知恵を出し合い，スムーズな地域展開が図られるよう取り組んでまいりましょう。

他にも異動したばかりの教員のメンタル不調による病気休暇や休職，そして離職するケースが問題となっています。私たちの世代は，教えを請う際に「先輩の姿から学びなさい」とか「失敗してもいいからいろいろ試してみて」とかよく言われたものでした。しかし，デジタル技術と共に育ち，コスパ・タイパ重視のＺ世代は，その答えをインターネットから得ようとする傾向が強いと考えられます。それが，現場からリタイアする原因の一つと決めつけるわけではありませんが，校長はＺ世代の育ってきた背景とそこで培ってきた価値観を理解し，デジタルリテラシーが高いといった彼らの強みを生かす経営に配慮することも，彼らの，そして学校を生かすことにつながっていくのではないでしょうか。ここでも校長の戦略的なビジョンと，それを成し遂げるためのリーダーシップが強く求められています。

人口減少，少子高齢化が加速度を増す中で，あと25年もすれば日本の人口が約１億まで減少し，生産年齢の人口比率は約５割になると予測されています。外国人の占める割合が，欧米並みになるとも言われています。また，諸外国に目を向ければ，終わりの見えない複数の戦争が起きており，尊い命がはかなくも失われていく状況が連日続いています。このように不確実性が増す中で，平和を願い，夢と志をもって他者と協力し合い，新たな，そしてグローバルな社会を創り上げる，その人づくりと，それを担う教師集団づくりが，今校長に課せられた大きな使命だと強く感じております。

依然として学力向上や不登校・いじめ，働き方改革など，課題は山積しています。しかし私たち校長は，決して先送りせず，一つ一つの課題に真摯に向き合い，宮城県中学校長会が一枚岩となって令和の日本型学校教育の実現に向け歩み続けることを，本日，皆さんとで確認し合いたいと思います。

終わりになりますが，今年度は10月８日に，石巻市のマルホンまきあーとテラスに於いて，全会員が参集し第43回宮城県中学校研究協議会東部大会を開催する予定となっています。この研究協議会は，着実に前進してきた本会の歩みを全員で確認できる機会でもあります。皆様の力で成功裡に導けるよう御協力と御支援をお願いいたします。

結びに，何よりも私たち校長が心身ともに健康でなければ，望ましいリーダーシップは発揮できません。健康には十分留意され，今後も会員相互に連携しながら研鑽を積み，その成果を各学校の経営に反映することにより，生徒が持続可能な社会の創り手として健やかに成長していけることを切に願いまして，開会の挨拶といたします。

祝　　辞

宮城県教育委員会
副教育長
千　葉　潤　一　様

総会の開会に当たり，一言お祝いを述べさせていただきます。

本日，県内各地から校長先生方が一堂に会し，令和７年度宮城県中学校長会総会が盛大に開催されますことを，心よりお喜び申し上げます。

宮城県中学校長会は，これまでの諸先輩方が築き上げてこられた豊かな経験と英知，そして校長先生方の強固な連携という，かけがえのない財産を積み上げ，宮城県の教育の発展に大きく寄与されてきました。今年度も，校長会としての取組に大きく期待を寄せるものであります。

また，ここにお集まりの校長先生方におかれましては，各学校において，強いリーダーシップのもと，学校経営に存分にお力を発揮されておりますことに，改めて深く敬意を表しますとともに，日頃より，県教育委員会の施策や取組に対し，御理解，御協力をいただいていますことに感謝申し上げます。

さて，県教育委員会では，昨年３月に改訂した「第２期宮城県教育振興基本計画（改訂版）」のコンセプトブックにおいて，「みやぎの教育のミライに向けて・・『みんなで創る』」というメッセージを掲げました。子供たちが自ら困難を乗り越え，未来を切り拓くための柔軟性と適応力，そして夢や志をもち，可能性に果敢に挑戦する力を育む教育を展開するとともに，全ての子供たちが安心して充実した学校生活を送ることができる教育環境を，皆様と共に創り上げていきたいと考えております。

本庁各課の具体的な事業等については，後ほど各課から説明がありますので，そちらでご確認ください。私からは，今考えていることについて，３点お話します。

一つは，「学校は楽しいところであってほしい」ということです。

校長先生方が子供の頃と今の学校を比べると，社会の変化とともに，学校は大きく変化しました。やらなければならないことや対応が難しいこともたくさんあるかと思います。先生方は大変でしょうが，子供たちにとって，学校とはどんな場所なのでしょうか。校長先生方の学校の子供たちを想像してください。子供たちは，どんな表情，姿で学校にいるでしょうか。子供たちは，学校が心の底から楽しいと思える場所になっているのでしょうか。「今日一日楽しかったな！」「明日の学校も楽しみだな！」子供たちがそう思える学校になってほしいと思います。

二つ目は，「褒めるよりも，認める」ということです（これは，多くの方が様々なところで話しています）。昨年この場で，「子供を変えようとするのではなく，分かろうとすること」と話しました。子供のことが分かれば，教師のまなざしが変わるし声掛けが変わります。そこで，そのときの声掛けが大切です。

褒めようとすると，その子の良いところを探そうとします。良いところがたくさんある子は褒められるが，そうでない子は褒められません。そもそも「良いところ」というのは教師が望む，教師にとってのものです。認めるということは，子供の事実全てを受け入れ，認める。その子の弱点や失敗も認められる。何よりその子の存在自体が素晴らしいと表すことになります。たとえうまくいかなくても，失敗しても，結果＋努力や経過を認めることが大切です。

三つ目は，「今こそ，学級づくりを」ということです。今回の学習指導要領では，中学校・高校の総則にはじめて「学級経営の充実」という文言が掲載されています。これは教師だけが行う「学級経営」ではなく，教師と子供たちが行う「学級づくり」をしっかり進めることです。子供たち自身が，自分たちの学級という自覚や実感をもち，「この学級を良くしていこう」「みんなで目標に向かって頑張ろう」「学級の全員で助け合っていこう」という気持ちややる気，思いやり，団結力があれば，勉強も分かるようになるし，友達も大切にもするし，学校も大好きになります。集団が苦手の子供もいるかと思います。その子供には無理はさせずに，心地よさを感じさせたいものです。

子供と「人は一人では生きていけない。学級の全員で助け合い，支え合い，学級をより良くして

いこう」という『学級の大切さ』を確認し続けることが大事です。そうすれば，一人一人も伸び，成長していくはずです。

結びとなりますが，重責を担う校長先生方御自身の健康にくれぐれもご留意いただき，未来を担う子供たちの健やかな成長のために，引き続き御尽力賜りますようお願い申し上げます。

宮城県中学校長会のますますの御発展と，本日御参集の皆様の御健勝を心よりお祈り申し上げ，お祝いの言葉といたします。

新会員代表挨拶

亘理町立荒浜中学校
校　長　**遠　藤　貞　悟**

青葉が目に鮮やかな季節となりました。本日は御多用の中，宮城県教育委員会副教育長千葉潤一様をはじめ，御来賓の皆様の，先輩校長先生方の前で挨拶をさせていただくこと，誠に光栄に存じます。これから，未熟な私たちをお導きいただきますようお願い申し上げます。

さて，私たちは４月に校長としての「第一歩」を踏み出しました。それぞれが初めてのことに戸惑いながら，学校目標の具現化や学校運営上の課題に取り組んでいることと思います。

私も校長として様々な対応の判断や決断が求められる立場であること，子供たちと教職員の大切な命を預かる重み，学校の方針を保護者に理解していただくことなど，責任の重さをひしひしと感じている毎日です。これまで御指導いただいた校長先生方の，教育に対する情熱と信念のもとの的確な指示と指導を思い起こし，改めてその偉大さと尊敬の念を抱くところです。

さて，近年の子供たちを取り巻く状況は，大きく変化し，いじめ，不登校といった課題への対応に加え，情報過多社会における判断力，多様な価値観を理解し尊重する力を育成することなどが求められています。また，東日本大震災から14年が経過した現在の中学生は震災後に生まれた子供たちですが，災害や事故等から命を守るために必要な知識と行動力など，未来を生き抜くために必要な能力を育むことなどが重要と考えております。

さらに，教職員の働き方改革の推進や，部活動の地域展開など学校だけではなく地域との連携が喫緊の課題と捉えています。

これらの課題に対し，校長として現在微力ながら取り組んでいることは，教職員との対話を重視し，ＤＸ化も推進しながら，校長と教職員が同じ方向を向いて，チームとして取り組むことです。子供たち一人一人に寄り添い，未来を担う子供たちが「生きる力」を育める教育の実施，安全・安心な学校環境の整備，地域や関係機関と連携した「地域で子供を育てる環境の整備」を，リーダーシップを持って進めていく所存です。

本日，晴れてこの宮城県中学校長会総会に出席させていただく栄誉を賜りました。

先輩校長先生方は，これまでの数々の教育課題に真摯に向き合い，震災や新型コロナなどの数々の困難を乗り越えてこられた学校教育の牽引者でいらっしゃいます。その御経験と御知見を，これからの我々新会員にとっての指針とさせていただき，引き続き多くのことを学ばせていただきたいと思います。

これから私たちは，宮城県中学校長会の一員として，「子供たちの学び」「子供たちの命」をしっかり中心に据えつつ，校長として様々な学校課題に真摯に向き合い，その解決に向けて一層研さんを積み，日々精進してまいります。

最後になりますが，本日御臨席くださいました御来賓の皆様と会員の校長先生方の御健勝，そして宮城県中学校長会のますますの発展を祈念するとともに，引き続き皆様からの変わらぬ御指導を賜りますようお願い申し上げ，新会員代表の挨拶といたします。

宣　　言

今日，我が国の教育は人格の完成を目指し，伝統と文化を尊重するとともに，豊かな人間関係で満たされる持続可能な社会の創り手を育成する使命を担っている。

私たちは，自然災害や新たな感染症の発生，グローバル化の進展や急速な技術革新など社会状況が変化する中，新しい時代の中学校教育の課題に対応するとともに，自らの責任において全日中新教育ビジョンに基づく学校からの教育改革を推進し，新たな中学校教育の創造に努めなければならない。

宮城県中学校長会は，東日本大震災による被災からの再生と全ての子供たちの可能性を引き出す学びの充実，教育改革の推進を第一義に，これまでの成果の上にたって，当面する教育課題の解決を図り，特色ある学校づくりに努め，県民の付託に応える決意である。

ここに，第76回総会に当たり，下記事項を決議し，その実現に期する。

決　　議

一　人間尊重の精神に徹し，「社会を生き抜く力」や「よりよい社会を形成する力」を育む教育を推進する。

一　学習指導要領に基づく特色ある教育課程を編成・実施・評価・改善し，確かな学力の定着，豊かな心と健やかな体の育成を推進する。

一　現在の教育課題に即した研修を充実し，教職員の資質･能力の向上と使命感の高揚に努める。

一　創意ある教育活動を展開し，家庭・地域社会の信頼に応える開かれた学校づくりに努める。

一　教育活動の活性化を目指し，人的措置をはじめ確固とした教育条件の整備・充実を期する。

一　「義務教育費国庫負担制度」及び「人材確保法」を堅持し，教育水準の維持向上を期する。

一　引き続き「学校における働き方改革」を推進し，教職員の勤務実態を踏まえ，有効かつ持続可能な指導・運営体制の構築を期し，新しい時代に求められる学校づくりに向けてリーダーシップを発揮する。

一　東日本大震災をはじめ近年多発する災害等により被害を受けた地域の復興を期し，教育活動の充実に向けた支援と防災教育・安全教育の一層の充実に努める。

令和７年５月30日

宮城県中学校長会

新　任　抱　負

啐啄同機

白石市立小原小中学校長
中津川　康　明

本校は白石市から20分ほどの山間部に位置しており，学区には，材木岩という景勝地や小原温泉等の観光施設があるなど，豊かな自然に恵まれた環境に立地しています。平成20年度からは，白石市教育委員会より小規模特認校の指定を受け，令和２年度からは，愛称を「小原学園」として新たなスタートを切り，少人数を生かした教育や９年間を見通した系統的な教育に取り組んでいます。

ある朝，校舎の前の庭から子供たちが遊ぶ楽しい声が聞こえてきました。思わず仕事の手を止めて外を眺めると，小学校１年生から中学校３年生までが一緒に遊ぶ姿がありました。小規模校の特色を生かして，異学年で交流する機会を大切にしている本校の特色を表す光景でした。安心できる環境の中で自分の考えを述べる「探究の対話」も本校で大切にしている活動の一つです。朝の時間帯を利用して教職員も一緒に対話を行うことで，人として子供たちと向き合い理解を深める機会となっています。また，地域の特色を生かした学習も本校の特色の一つです。小学生が「小原のステキを探そう」と題して調査活動を実施したり，小学校５年生から中学校１年生までが「水」の循環について地域学習を行ったり，小原弓道会の御協力のもと，弓道体験を実施したりと，地域に見守られ育まれていることを実感しています。

以前に私が勤務した学校に「啐啄同機」という言葉が掲示してありました。「啐」は雛が内側からたまごの殻を突くこと。「啄」は親鳥が外側から殻を突くことを表しており，機会を逃さず支援することの大切さを説いた言葉です。校長としてまだまだ未熟な私ですが，機会を逃すことなく判断し，教職員と力を合わせ，保護者や地域の力を結集し，本校の学校教育目標である「ふるさとを誇りに思い，心豊かでたくましく，かしこい児童生徒の育成」に向けて努力していきたいと思っています。

新　任　抱　負

２度目の七中勤務に課せられたこと

七ヶ宿町立七ヶ宿中学校長
佐　藤　徳　之

七ヶ宿中学校には主幹教諭として勤務したことがあるため，この度の勤務は２度目となります。

前回勤務した際には，七ヶ宿の自然の美しさやそこに暮らす人々の温かさを実感することもさることながら，サルを始めとする野生動物を目にする頻度，冬から春にかけての積雪と低温など，山岳地帯のあれこれにいちいち驚いたものでした。しかし，２回目であるこの度は少しゆとりをもって受け止めることができています。

新任校長としての赴任先が七ヶ宿中学校と知ったとき，後になって浅はかであったと猛省するのですが，「やり易し」と感じてしまいました。前回勤務時の同僚が残っていましたし，役場や地域の方々との面識もあります。校舎や教育活動についても把握しています。私は当時の七ヶ宿中学校の実態をベースに，あんなことをしたい，こんなことをしたいと夢を膨らませていました。

しかし，いざ赴任してみれば，様々なことが予想していたことと異なっていました。当たり前のことです。変革の激しいこの御時世ですから，何年かあれば学校も取り巻く環境も変わっていても不思議ではありません。その時々に様々な実情があり，それに対応すべく検討と試行を重ねた結果が現在の七ヶ宿中学校です。

私はこのことを十分理解し，現任の校長として，七ヶ宿中学校の経営を継承・発展させていかなければなりません。

本校の学校教育目標は「社会をつくり，たくましく生き抜く生徒の育成」です。これは前回勤務していたときと変わりませんが，近年は目標の具現化のために「生徒の自立」に重きを置いています。

そこで，どんな姿を「生徒の自立」とするのか，誰が・いつ・何をするのかについて，教職員全員でじっくり検討することから始めたいと考えています。また，ここから生じる取組については，生徒・保護者・地域の方々に分かりやすく示していきたいと考えています。

『自分なりに・自分らしく』

七ヶ浜町立七ヶ浜中学校長
奥　山　　香

４月１日の赴任した際に，生徒たちからの歓迎セレモニーを受けました。３月末まで教頭として小学校に勤務していた私にとって，生徒たちはとても大きく，頼もしい姿に見えました。「そう言えば，中学生はこんな感じだったな」と数年前の記憶をよみがえらせてくれる時間でした。

本校は，東北地方で一番面積が小さい町のほぼ中央に位置しています。東南は太平洋，北は松島湾，西は貞山運河に囲まれており，校舎２階から海が見えるという，すばらしい場所にあります。校舎は東日本大震災の地震により大破したため，平成26年に建て替えられました。教室のほとんどが１階にある造りとなっているので移動が簡単で，大きな窓がとても多く，明るい雰囲気です。192人の生徒たちは素直で学校生活や諸活動にとても前向きな姿勢で取り組んでいます。特に体育祭や合唱コンクールなどの行事の際には，毎年素晴らしい団結力を発揮しています。教職員は熱意と愛情をもって教育に取り組んでいます。保護者や地域の方々は学校にとても協力的であり，いつも生徒たちを優しく見守ってくださっています。

このような自慢できる学校に，校長として赴任してから数か月がたちました。これまで校長という立場で，多くの会議や研修に参加しましたが，いつも同じことを思います。それは，校長としての立場で物事を見たり，考えたりする力が自分に備わっているのだろうかということです。４月から「検討してほしい・指示してほしい」という言葉を何度も投げ掛けられています。分からないことも多く，自分の考えをまとめることに時間が掛かり反省する毎日です。また，責任の大きさを痛感する毎日でもあります。しかし，自分なりにやっていこうという気持ちは強くもっています。諸先輩方から「小学校で勤務した経験を生かして」というエールをいただいたことを忘れずに，今よりも更に自慢できる学校を目指して，自分らしく取り組んでいこうという気持ちで一杯です。

新　任　抱　負

新任校長として

名取市立第二中学校長
渡　邉　義　行

本校は，昭和56年に旧高舘中学校を母体とし，増田中学校区のＪＲ東北線以西の地区を併せて新設されました。高舘山や熊野神社など，豊かな自然と歴史的文化財に恵まれた地域に根ざしています。私は平成22年から６年間，教諭として本校に勤務しておりました。最後の２年間は１学年主任，２学年主任を務めておりましたが，３学年を担当できずに異動となり，当時は顧問をしていた野球部の生徒たちや学年の生徒たちと別れるのが大変寂しく感じられました。そのような深い思い入れのある本校に，新任校長として赴任できたことをとてもうれしく思っています。と同時にその職責の重さを日々痛感し，身が引き締まる思いです。

本校は，「一人一人が楽しく学べる学校　自分らしく輝ける学校」を目指す学校像とし，その実現に向けて，「わかる授業を想像し，確かな学力の向上を推進する」「豊かな心，健やかな体を育てる」「開かれた信頼される学校づくり」を重点努力事項として取り組んでいます。着任からの２か月の間に授業参観，修学旅行，職場体験学習，中総体などの行事がありましたが，職員は生徒と共に汗を流し，日々の教育活動を順調に展開しています。また，本校の特色ある取組として，１年生対象の「仕事博覧会」があります。地元にある様々な仕事を知ることを目的に，農業や製造，卸・小売業など昨年度は33の企業等に協力をいただきました。今後もこのような取組を継続し，地域学校協働本部と連携を図りながら，地域及び保護者と共に生徒を育てていきたいと考えています。

赴任して２か月が過ぎ感じているのは，素直で真面目な生徒，生徒に真摯に向き合い熱心に指導する教職員，学校運営に温かく協力してくださる保護者と地域の皆様の存在です。この恵まれた環境に感謝し，校長としての職責を果たすために全力を尽くしたいと思います。

未来を担う子供たちのために

岩沼市立玉浦中学校長
佐　藤　和　夫

「私たちの　大切な仲間が　津波の犠牲になりました　私たちは　笑顔が絶えなかった　二人のことを　決して忘れません」これは，暖かな日差しが降り注ぐ校舎南側の丘に，静かにたたずむ石碑に刻まれた卒業生の言葉です。

本校は岩沼市の南部，海岸線からおよそ２㎞離れた場所に位置する豊かな自然に囲まれた学校です。東日本大震災では，学区内がほぼ全域にわたり水没するという甚大な被害を受けました。この震災の記憶を風化させることなく未来へとつなぐために，本校では様々な取組が行なわれています。新年度が始まって間もなく行われた「ともに」と名付けられた集会は，ガラスでできたモニュメントを前に，「震災を忘れない」という想いを込めた『玉浦中の三つの約束』を改めて確認する大切な時間でした。翌週には大津波警報を想定して，全校生徒が市街地へ向かって約２㎞の道のりを徒歩で避難するという訓練を実施しました。

着任してからの２週間は，子供たちの命を守ることが学校にとって最も大切な使命であることを改めて心に刻む，貴重な時間となりました。学校は学びの場であると同時に，子供たちが安心して過ごせる場所でなければなりません。これは自然災害だけでなく，不審者対応，いじめ，交通事故など，あらゆるリスクから子供たちを守り，心身ともに健やかな成長を支えるという意味でもあります。そのためには，日常的な安全教育や危機管理体制の整備，教職員と地域社会の連携が不可欠であることを改めて強く感じています。

時代とともに教育環境は大きく変化し，子供たちを取り巻く状況も，決して容易ではありません。その中で，私たち教職員は物事の本質をしっかりと見極め，柔軟に対応していく姿勢が求められていると思います。玉浦中学校教職員一同，力を合わせて，未来を担う子供たちのために，楽しく魅力ある学校を保護者や地域の皆さんとともに創っていきたいと強く思う日々です。

新　任　抱　負

地域にある『行きたくなる学校』を目指して

山元町立山元中学校長
大　友　明　美

この度，山元町立山元中学校の校長を拝命し，その責任の重さとともに，地域とともに歩む中学校づくりへの使命を改めて感じております。

山元町は，東日本大震災を経験した地域の１つです。その中で，本校は「生徒が安心して学べる学校」「保護者が信頼を寄せる学校」「地域に開かれた学校」として，復興と再生を象徴する学び舎であり続けてきました。私は，その歴史と歩みに敬意を抱きながら，「地域にある学校」としての役割をさらに深化させ，「誰もが行きたくなる学校」づくりを目指してまいります。

まず，生徒にとっては「自分が大切にされている」と実感できる学校であることが何より重要です。学力の向上はもちろんのこと，自己肯定感や社会性を育む教育活動を充実させ，主体的に学び，心豊かに成長する生徒の育成を図っていきます。そのために，教職員一人一人が互いの専門性を生かしながら，チームとして協働できる風土を醸成し，働きがいのある職場環境づくりにも取り組みます。

また，学校は地域の宝であり，地域と共にある存在です。地域の方々が「この学校があってよかった」と思えるよう，行事や学習活動を通して地域とのつながりを大切にし，地域の力を子供たちの学びに生かす「共育」を推進してまいります。地域や保護者，関係機関と手を取り合い，子供たちの未来を共に育てる姿勢を大切にしていきます。

新任校長として，まだまだ力不足を痛感しておりますが，「一人一人を大切にする教育」「開かれた学校づくり」をキーワードに，教職員とともに歩みながら，魅力ある学校づくりに邁進してまいります。今後とも御指導・御支援を賜りますようお願い申し上げます。

「さあ今踏み出そう　明日が変わってゆく
世界中にたったひとつの　夢がはじまる
ここはふるさと　山元中学校　」
『山元中学校　校歌　一部抜粋』

校長として任用された私の役目

大郷町立大郷中学校長
小山内　正　諭

大郷町立大郷中学校の校長として任用され，その重責に身の引き締まる思いでおります。新たな教育課題が山積する中，私が果たすべき役目とは何か。前々任校での経験を踏まえ，今あらためてその問いと向き合っています。

令和５年度まで勤務していた学校は文部科学省のＬＤＸ（Learning & Digital Transformation）指定校として，校務ＤＸ・授業のＤＸ・生活のＤＸに取り組む機会を得ました。これらの実践を通して私が学んだのは，教育現場におけるＤＸとは，単なるデジタル化ではなく，学校の在り方を根本から見直し，子供たちの学びと育ちを支える改革であるということ学びました。

私の最大の使命は，これまでの経験を生かし，本校でも３つのＤＸを推進し，誰一人取り残さない教育を実現することです。とりわけ，多様な生徒に対応するための授業改善は急務であり，学びの質を高める工夫と実践が求められています。

そのためには，教職員一人一人の意識改革と専門性向上が欠かせません。校内研修の充実を図り，共に学び合う風土を育て，日々の教育実践を見つめ直す文化を築いてまいります。そしてその積み重ねが，学びの充実はもちろん，教職員の働きがいを高め，学校全体に活気へとつながるものと考えています。

私は，こうした活気ある職場づくりこそが，不登校や心の不調を防ぎ，子供たちが安心して通える学校づくりにつながると確信しており，教職員の笑顔は，子供たちの笑顔に直結するものであるとも思っています。

「子供を真ん中に据えた学校づくり」の実現に向けて，教職員，保護者，地域と連携しながら全力を尽くしてまいります。

新　任　抱　負

全ての人が笑顔になる学校

大崎市立田尻中学校長
青　木　康　子

本校は，大崎市東部の大崎耕土を形成している田園地帯に位置しています。大崎市は，自然豊かな環境，豊富な温泉，そして歴史と文化が魅力です。特に学区内には，ラムサール条約登録20周年を迎えるマガンの飛来地区蕪栗沼があります。また，学校周辺には教育施設が整っており，本校から半径１㎞内に総合体育館，文化センター，公民館，認定こども園，小学校や高等学校等があります。このような恵まれた環境で，私の校長としての学校生活は，生徒198人，そして29人の教職員と共にスタートしました。

田尻中学校の一日のスタートは，朝の昇降口での生徒と先生方による挨拶と笑顔でのおしゃべりから始まります。先生方の登校してくる生徒に，「おはよう！」の挨拶の後に，生徒の表情を見ながらさらに一声掛ける姿に，教師としてのプロ意識と生徒への愛情を日々感じる朝を過ごしています。先日は，「校長先生から朝昇降口で声を掛けてもらえると今日も頑張ろう！って思います！ありがとうございます！」と生徒から感謝の気持ちを伝えてもらいました。その言葉に，私は素直に感謝を伝えることができる生徒に尊敬の念を抱きつつ，私の心はわくわくし，うれしくなりました。しかし，笑顔で登校する生徒ばかりではありません。登校時刻を過ぎた後の下駄箱に上靴が残っている，登校できない生徒もいます。

私はこの朝の昇降口での時間を過ごし，校長として，「学校に関わる全ての人が，笑顔でいられる学校」「来校した全ての人が，帰る時には笑顔で帰る。また，この学校に来たいと思う魅力ある学校」をつくると心に誓い，毎朝下駄箱に残された上靴をその子の笑顔を想像し数えています。生徒たちの笑顔は，家族，地域社会の人々の笑顔につながります。やる気のあるプロ集団の教職員と共に，「明るく！楽しく！元気よく！」笑顔を大切に，体力・知力・人間力を育んでいきます。

子供たちの行く手は常に輝けり

栗原市立若柳中学校長
武　田　　誠

本校の校歌は「豊かの栄えふるさとの　望む栗駒　姿良く」と始まります。栗原市立若柳中学校は，豊かな水と青々とした緑に囲まれ，西に名峰栗駒山を望む美しい地域の中にあります。校長室の窓からは，南へ遥かに広がる田園地帯となだらかな北上高地の起伏が見え，鳥のさえずりや校地を彩る季節の花の色や香りが，心の落ち着きと学校生活への潤いを与えてくれています。

昭和45年に旧若柳町内の３つの中学校が統合されて生まれた本校は56年目を迎えました。かつて栗原電鉄が走り，地域の産業の拠点だった長い歴史をもつ若柳地域に赴任して２か月がたちました。校長室に掲げられた偉大な校長先生方の写真に見つめられながら，校長としての決断と責任の重さを日々痛感する毎日です。

先輩が，昔こんな話を聞かせてくれました。「学校の中で『地域の願い』を意識できる部分はどこだ？」「ヒントは校長室」。そこまでしか教えてもらえませんでした。あれから大分時間がたち，その１つが『校歌』であることがようやく分かりました。

以前勤めた学校では，閉校を目前に控え，校長先生が熱心に校歌の歴史と意味を紐解いておられました。校歌には，その土地土地の歩み，未来へ込めた希望，自然への畏敬など様々な願いが集約されており，地域の人が願う子供の姿が投影されていることを教えていただきました。中学校とは，その思いに包まれ，背中を押されながら，伸び伸びと集団生活を送る場所だと，校歌を声高らかに歌う若中生を眺めながら実感しています。

先人たちの不断の努力により連綿と続く「地域に開かれた学校」を引き継ぎ，「自分に挑み，人と関わり，未来を創る生徒を育てる」ため，生徒・保護者・教職員・地域の方々と手を取り合いながら，この地に育つ幸せを感じられる生徒を育てていきたいと思います。

本校の校歌の最後は「行く手は常に輝けり」です。ここに学ぶ生徒，巣立つ生徒の未来が常に輝くものとなるよう為すべきことは何かを自分の命題とし，共に進んでまいりたいと思います。

新　任　抱　負

転換期を迎える中学校の校長として

気仙沼市立新月中学校長
西　條　和　也

昨今の児童生徒数の急激な減少により，地域全体の教育の在り方が見直されている中，気仙沼市においても，中学校の再編という大きな転換期を迎えています。

この３月まで教育行政の現場に身を置き，学校再編の担当として，多くの学校や保護者・地域の声に耳を傾けてまいりました。「様々な活動の選択肢が増える期待」が語られる一方で，地域の皆様からは，「学校が無くなることによる地域衰退の不安」の声が寄せられました。

こうした転換期に校長として着任したことは，身の引き締まる思いであるとともに，「不安」を「新たな希望」へとつなげていくこと，そしてこのような時期だからこそ，「地域と共にある学校・魅力ある学校づくり」が必要だと考えています。

新月中学校は，平成10年に新城中学校と月立中学校が統合した，木のぬくもりが感じられる校舎と豊かな自然に囲まれた比較的新しい中学校です。気仙沼市の西部に位置し，南北に15㎞，東西に10㎞と学区が広く，６割が公共バスにより通学しています。

大きな特徴として挙げられるのは，学校の敷地内に新築されたばかりの公民館があることです。生徒も放課後や部活動などで利用しています。学校運営協議会（ＣＳ）も昨年度末に立ち上がり，地域連携にはこれ以上ない環境が整っています。

このような市の状況と恵まれた環境を背景に，私は今年度のテーマを「生徒・教師・そして地域の誰もが笑顔で夢や希望を語り合う学校づくり」と設定しました。地域や公民館行事への生徒の参加，同じ学区の小学校や再編となる近隣の中学校との交流など，やりたいこと，やるべきことがたくさんあります。

学区や学習フィールドが更に拡大していくからこそ，地域で子供たちを育てていける関係を築き，環境の変化の中でも，一人一人の生徒が，安心して自分らしく成長できる環境を整えていかなければいけないと思います。それが，転換期を迎える中学校に校長として着任した私の使命だと感じています。

たくさんの笑顔のために

石巻市立牡鹿中学校長
菅　野　修　一

甲高い鹿の鳴き声と黒潮を渡る風に包まれながら，校門で生徒の登校を出迎えるところから私の一日が始まります。本校の全校生徒は14人。前任校が管内一の生徒数だったこともあり，一人一人の顔と名前が一致することの幸せを実感しています。保護者との距離も近く，平日の日中にもかかわらず運動会に向けての会場準備に両親そろって参加する家庭も多いなど，とても協力的です。

牡鹿中の売りは「笑顔創造プロジェクト（ＥＳＰ）」。地場産業である漁業体験（今年は６月に牡蠣剥き体験）や，学区内の網地島や漁港を舞台にしての侍ソーランの披露などは，地域の協力をいただきながら行われています。今年８月９日(土)におしかホエールランドで行われる牡鹿鯨まつりでも侍ソーランを披露する予定です。牡鹿に足をお運びいただき，ぜひ御覧ください。

今年の運動会はお天気祭りをしない校長のせいで残念ながら雨模様となり，体育館に場所を移して実施しました。ギャラリーを取り囲んで飾られた数多くの大漁旗に見守られながら，演目の１つとして披露された侍ソーランに，観客として来ていた牡鹿中卒業生数名が急遽ハッピを着て参加しました。生徒と卒業生が真剣なまなざしで一体となって踊る姿に，牡鹿中がこれまで築き上げてきた伝統の素晴らしさを実感することができました。

素直で前向きな生徒たち，その生徒を支えるために努力を惜しまない教職員のために，私は校長として何をすべきか，何ができるのか。自問自答は今後も続きますが，まずは生徒・職員の命と安全を守るために必要なことを徹底することなど，優先順位を決めて当たり前のことを大切に丁寧に遂行していくことで，牡鹿中の伝統を確かに積み重ねていきたいと考えています。

今年から校長室を出てすぐ目の前に，生徒たちの日々の活動を撮影した写真を掲示しています。これからもたくさんの笑顔を掲示できるよう，精進を積み重ねる所存です。先輩の校長先生方，今後も御指導のほどよろしくお願いいたします。

新　任　抱　負

精励・敬愛・進取

登米市立東和中学校長
白　石　善　郎

本校は登米市の最北に位置し，岩手県境に接しています。自然豊かで，周囲の山には特別天然記念物のカモシカをはじめとする野生の動物がたくさんいるようです。春先には，桜の木をキツツキがつつき，リスが走っていました。カメムシも至る所に現れます。

また，学区内の３つの小学校が統合し，小・中一貫校ではありませんが，本年度から同じ校舎で活動しています。１階に職員室・校長室が小・中それぞれあり，２階に小学生の教室，３階に中学生の教室，校庭に遊具も設置されています。校長という新しい職務に加え，小学生の声が聞こえる校舎と新しすぎる環境で毎日を過ごしています。

毎日生徒が登校する坂では自転車を押して登っている途中でも，立ち止まって，通過する自動車に礼をする姿が当たり前になっています。全校生徒数は108人ですが，大きな学校にはない特色ある活動が多くあります。ユネスコ無形文化財に登録されている「米川水かぶり」についての郷土学習，生徒が会社を立ち上げて自作の商品を地域の祭りで販売する「起業学習」に代表される特色ある学習活動が多く行われています。そして，このような活動には地域の方との関わりも大きく，まさに地域のみんなで育てている学校です。加えて，前述のように小学校の併設で今後連携する活動も模索していくことになります。

タイトルに掲げているのは，東和中学校の校訓です。「精励」とは仕事などを目一杯行うこと，「敬愛」は相手を敬い大切にすること，「進取」は自分から進んで物事に取り組むことです。これは，生徒のために学校経営を進める私にとっても当てはまる言葉と感じています。校長室の自席の前に並ぶ諸先輩方の写真に見つめられながら，その思いを強くしています。そこに，私自身のこれまでの「仕事は楽しく，職場も楽しく」という思いを忘れずに，生徒のために職員のために「精励・敬愛・進取」を実現していきたいと思います。

編集後記

この度の会報151号は，5月末の総会に関わる内容のものと，新任の校長先生から寄せられた原稿を基に作成しました。御多用のところを執筆に御協力いただきました関係の皆様に，心から感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の５類移行後の社会活動の平常化により，今年度も宮城県中学校長会総会は全会員による参集型で開催し，御来賓の御臨席の下，成功裡に終えることができました。本会の目的は，県内各地区中学校長会相互の連絡提携を図り，中学校教育の全領域に渡り当面する課題の検討や研究協議，関係機関への提言や情報発信を行い，本県教育の振興に寄与することとしています。総会当日は「令和の日本型学校教育」の実現が求められている中，私たち中学校長は，求められる学校づくりに向けてリーダーシップを発揮し，今後も会員相互の力を結集して創造的且つ豊かな教育活動を推進していくことを確認し合いました。

会報の作成にあたり原稿を読み返しますと，執筆にあたられた関係の皆様の教育に対する情熱が伝わってまいります。改めて学校のリーダーとしての強い覚悟を胸に刻むとともに，共に歩む仲間がいることに心強さを感じました。会員の皆様にはこの会報を手に取っていただき，本会の取組の方向性について改めて確認・共有していただければ幸いです。

終わりになりますが，今後も情報部は本会の活動の様子ホームページや紀要などを用いて情報発信してまいります。御協力と御支援を賜りますようお願いします。　　（情報部長　千坂）

令和７年度　宮城県中学校長会事務局
〒985-0851
多賀城市南宮字八幡170
多賀城市立第二中学校内
TEL：022-309-1351
FAX：022-309-1352
E-mail：miyagi-kochokai@wine.plala.or.jp
事務局員：佐々木　奈美子
宮城県中学校長会ホームページ
http://www13.plala.or.jp/miyagi-jhs/